

文化財(無形民俗)



上槻木の太鼓踊り
昭和48年9月21日町指定

宮崎地方より移入し踊りはじめられたものと推測される。もともとは念仏踊りであり旧暦8月15日、十五夜行事として催されてきたが山間地生活の無聊をなぐさめる一大レクリエーションとして定着し今日にいたっている。踊りの内容はきわめて素朴である。

文化財(美術工芸)



神面
昭和44年3月20日県指定 1号女面1個
昭和36年7月18日町指定 5個

下槻木四所神社に伝わる6個の神面で、どれも価値高き優れた作である。特に一號の女面は高さ21cm幅13.5cmで面相うるわしく気品があり、胡粉彩色が施され、頬に笑窪があり口紅のあとが残っている。

御神体に近きものと思われる。室町時代の初期徳永〜徳仁時代(1394~1468)の作と推定される。

文化財(建造物)



槻木四所神社社殿
昭和39年4月25日町指定

下槻木明神山の四所神社は紀州伊都郡高野山円生明神同体と伝えられ、伊勢、春日、三輪、住吉の四所に祀られている為四所神社と呼ばれている。社殿全体は瓦葺の鞘堂に覆われている。桁行2.16m梁間3.04m1間、屋根流れ造り・小社であるが鞘堂によって軸部、組物、破風、懸魚等完全に保存されて室町時代末期の様式を知り得るものとして貴重な遺構である。

草創年紀は明かではないが正長元年(1428)に興され、大永2年(1522)に槻木の地頭安部貞親の願いによって天氏重長が社殿を造り替えた。その後、天正18年(1590)に天氏重弘が本殿の修復をなしている。



多良木町槻木マップ

多良木駅より東南約15kmに位置し、途中右眼下に球磨郡が一望でき季節により雲海を眺められる。標高730mの槻木峠を越えて自然に囲まれた槻木の故郷路へ入り大淀川の源流へつながる自然と豊富な産物に恵まれた山里。

文化財(美術工芸)



木造弘法大師坐像
昭和44年3月20日県指定
所在地/多良木町大字槻木下槻木(大師堂)
檜の一木造りで像高56cm。正面向き
の大師堂で各部の均齊整い面相に気品
がある。右手の持物と左手の数珠を
失っている。先年、粗悪な塗料で彩色
されたので古像の面影を損じている。
彫作の年代が明かであり、高像の相を
写実的に再現した代表的な作である。

徳永19年(1412) 仏師秀泉の作。

文化財(天然記念物)



大師のコウヤマキ
昭和44年3月20日県指定
コウヤマキの大木中の代表的なもので
ある。槻木大師堂の境内にあるもので、
コウヤマキの樹齢約600年と推定。目通り幹の
周囲4m、樹高31.5m。

西郷橋跡

明治維新による廃藩置県で藩がなくなり、徴兵令の実施で、士族の武力もいなくなりました。

士族は、家禄を打ち切られ、替わりに公債が支給されましたが、生活に大きな打撃を受けるようになり、各地で反乱が起こりました。

西南戦争は、1877年(明治10年)、現在の熊本県・宮崎県・大分県・鹿児島県において西郷隆盛を中心にして起こった士族による武力反乱で、明治初期の一連の士族反乱のうち最大規模のものであって、日本最後の内戦となりました。

2月15日、鹿児島を出発し北上した西郷軍は、3月20日には田原坂で政府軍に大敗し、八代に上陸した政府の背面軍に退路を断たれ、南下することもできなくなり、矢部郷の浜町(現山都町)を経由し、4月27日、江代(水上村)に集結しました。その後、人吉球磨全域にわたって官軍に総攻撃を受け、小林、延岡、三田井へと進みましたが、進路を変えて南下し、8月26日には村所(宮崎県西米良村)に辿り着きました。

8月27日未明、下槻木の御大師堂に到着したものの、先日からの台風の影響で川を渡ることができませんでした。このため、ケヤキなどの大木を伐採して両端を合わせて結び、小木を桁として橋を造り、西郷さんはこの橋を這うようにして渡ったと言われています。

この日の午後には、宮崎県須木村堂屋敷(現小林市)に辿り着きましたが、身につけていたものは、折からの雨と汗でボロボロとなり、草鞋も切れ、数百の兵たちは皆裸足で、赤く腫れ上がっていたということです。

このような史実から、地元槻木では西郷さんが渡ったというこの橋を「西郷橋」と呼ぶようになりました。現在、橋は約250メートル下流に新しく「新西郷橋」として造り替えられています。

槻木の味どろろ まなびや
休校中の「槻木小学校」を利用した農家レストラン
猪肉や鹿肉、旬の野菜など槻木で採れる食材をふんだんに使った料理です。

営業日: 毎週 土曜日・日曜日(予約制)
10名以上であれば平日でも予約可
営業時間: AM11:00~PM2:00
お問合せ先: 落合 TEL(FAX):0966-44-1123
携帯電話:080-5203-7270
(写真は1例です。季節によって料理は変わります。)



アユとヤマメが同居する自然満載のフィッシングポイント 鏡北川